

長崎大学における高度安全実験施設（BSL-4施設） 整備に係る進捗状況等について

令和3年7月
文部科学省研究振興局

「長崎大学の高度安全実験施設（BSL4施設）整備に係る国の関与について」（概要）
（平成28年11月17日 国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議決定）

県、市が建設同意にあたって必要と考える、国の関与の「大切な要素」	国の具体的な対応
基本的な国の姿勢	《前文》 国家プロジェクトの一つとして、国策として進める。
施設の建設及び安定的な運営等に必要な支援	《1. 総論 ①施設の安全性確保》 文部科学省は、世界最高水準の安全性を備えた施設の建設及び安定的な運営のための維持管理、組織・人員体制の整備等に必要な支援を行う。
長崎大学の取組を第三者の立場からチェックする仕組み	《2. 管理運営体制の整備》 長崎大学の取組を第三者の立場からチェックする仕組みを、国の主導により構築する。具体的には、文部科学省は、関係省庁及び有識者等を構成員とする「施設運営監理委員会」(仮称)を開催し、大学が実施する安全性の確保と住民の理解などに向けた取組についてチェックする。
万一の事故・災害等への対応	《1. 総論 ④事故・災害等への対応》 ・万一事故・災害等が発生した場合には、厚生労働省及び文部科学省等は、直ちに職員及び専門家を現地に派遣して長崎大学に対する技術支援や指示を行うなど、関係自治体及び長崎大学と連携して事態収拾に向けて対応する。 ・関係省庁は、長崎大学が設置主体としてその責任を果たせるよう必要な支援を行う。

長崎大学 B S L - 4 施設整備に向けた予算措置について

- 2021年度予算において、長崎大学 B S L - 4 施設に関連する経費として、約22.8億円を計上。
- 今後も引き続き、本格稼働に向けた必要な支援を行う。

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
施設・設備	【実施設計】	【施設・ユニット、実験機器等整備】			7月末施設竣工予定 ▲
研究費	【各年度研究費の支援を実施】				
体制整備	【各年度人件費等体制整備に係る支援】				
予算額	約5億円	約12.8億円	約30.5億円	約43.8億円	約22.8億円

※施設竣工後も稼働に向けた試験運転等を実施予定

長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会の開催状況について

○委員会の目的

「長崎大学の高度安全実験施設(BSL4施設)整備に係る国の関与について」(平成28年11月17日関係閣僚会議決定)に基づき、長崎大学における高度安全実験施設(BSL4施設)の整備に当たり、大学が実施する安全性の確保と住民の理解などに向けた取組について第三者の立場からチェックすることを目的とする。

○開催概要(前回検討委員会以降)

- 第8回(2020/2/21) 建設工事の状況、安全確保の方策等について
- 第9回(2021/3/5) 建設工事の状況、安全確保の方策等について
→ BSL4施設建設工事の状況、BSL4施設における安全確保の方策等に関する検討状況及び地域理解の取組について議論を実施。
- 第10回 安全確保の方策等について(調整中)

○構成員

笥 淳夫	工学院大学建築学部 教授	小松原 明哲	早稲田大学理工学術院 教授
春日 文子	国立環境研究所 特任フェロー	笹川 千尋 (主査)	千葉大学真菌医学研究センター 所長
加藤 信介	東京大学 名誉教授	平尾 覚	西村あさひ法律事務所 弁護士
河本 志朗	日本大学危機管理学部 教授	平川 秀幸	大阪大学COデザインセンター 教授
		堀 賢	順天堂大学大学院医学部 教授

文科省としては、引き続き、長崎大学の取組を第三者の立場からチェックする仕組みを構築し、大学が実施する安全性の確保と住民の理解などに向けた取組についてチェックする予定。

背景・課題

- グローバル化の進む社会において、世界各地で流行する感染症が国境を越えて短期間に拡大するリスクや、慢性感染症の潜在的な感染拡大のリスクがますます高まっており、国際的な連携の下、感染症制御に向けた予防・診断・治療等の対策を進めるため、継続的に感染症研究を進めていくことが重要である。
- 健康・医療戦略(令和2年3月閣議決定)及び医療分野研究開発推進計画(令和2年3月健康・医療戦略推進本部決定)等に基づき、我が国における感染症研究基盤の強化・充実に資するとともに、新興・再興感染症制御に資する基礎的研究を推進する。

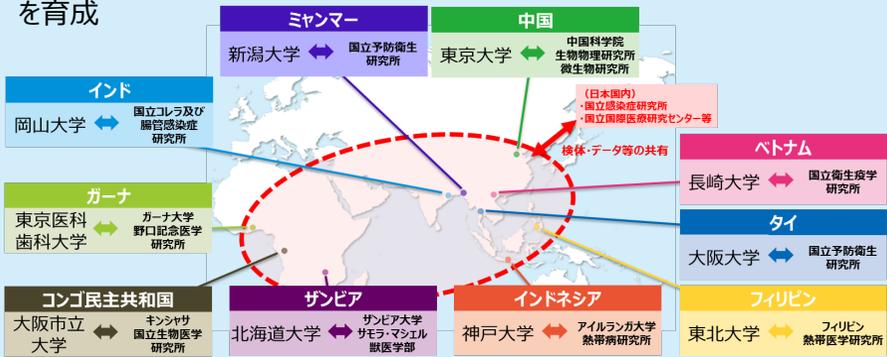
事業概要・令和3年度予算のポイント

今般のコロナ禍を受けて、我が国の感染症研究の一層の加速充実が求められている。このため、令和3年度については、独創的かつ斬新な発想や多分野の研究者との連携による研究課題の採択を重点的に行うほか、これまでの実績を生かした海外研究拠点の整備とその活用促進に向けた支援を着実に実施することにより、新型コロナウイルス感染症を含む各種感染症の予防・診断・治療法の開発に資する基礎的研究を強力に推進する。

我が国における感染症研究基盤の強化・充実

① 海外の感染症流行地の研究拠点における研究の推進

- 我が国の研究者が感染症流行地でのみ実施可能な研究
- 海外研究拠点と国内外の大学、国立感染症研究所及び国立国際医療研究センターをはじめとした研究機関をつなぐ多点間ネットワークの構築、同ネットワーク内における研究拠点・データ等の利用(拠点のオープン化、データ等の共有化)
- 海外における研究・臨床経験の提供等を通じて国際的に活躍できる人材を育成



海外研究拠点・研究ネットワークの活用



研究成果の活用

② 長崎大学BSL4施設を中核とした研究基盤整備

- 高度な安全性を備えた研究設備の整備支援
- 長崎大学BSL4施設を活用した基盤的研究(準備研究を含む)
- 長崎大学等による病原性の高い病原体の基礎的研究やそれを扱う人材の育成



新興・再興感染症制御のための基礎的研究

③ 海外研究拠点で得られる検体・情報等を活用した研究の推進

- 創薬標的の探索、伝播様式の解明、流行予測、診断・治療薬の開発等に資する基礎的研究
- 研究資源(人材・検体・情報等)を共有した大規模共同研究により、質の高い研究成果を創出

◆ 複数地域の病原体を用いた地域横断的な研究

④ 多様な視点からの斬新な着想に基づく革新的な研究の推進

- 多様な分野の研究者が連携し、独創的な着想に基づいて行う基礎的研究
- ◆ 数学、応用物理学、地理学、情報学、経済学等との多分野融合研究
- 欧米等で先進的な研究を進める海外研究者と連携し、最新の測定・解析技術や計算科学等を活用した研究
- 感染症専門医が臨床の中で生じた疑問を基礎研究によって解明していくリサーチ

